

<b>1 学校教育目標</b>	
<b>教育目標</b>	
○たくましく生きる力の育成	○個性豊かに生きる力の育成
○心豊かに生きる力の育成	
<b>中・長期目標</b>	
校訓「自立」の具体化を図り、時代の変化や社会の進展に対応できる人間の育成	
<b>○めざす学校像</b>	
・一人ひとりの夢の実現をめざす。 ・新しい教育スタイルを常に求める。 ・地域社会に貢献できる人材を育てる。	
<b>○育てたい生徒像</b>	
「基礎学力」をはじめ、「学ぶ力」「考える力」「表現する力」「行動する力」と「生涯学び続ける力」を身に付け、進路を獲得して、21世紀をたくましく生き抜き、自立した人間として社会に貢献できる人	

<b>2 現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）</b>	
<p>昨年度から校務分掌を、教務課、総務課、推進課、学校安全・体育課、進路課の5課体制に改編し、各年次との連携のもと、試行錯誤しながら業務を遂行してきた。特に「産業社会と人間」「Wise Person21（総合的な学習の時間）」「課題研究」を柱とした系統的なキャリア教育をはじめ、主体的・対話的で深い学びをめざした授業改善、多様性を尊重したきめ細かなガイダンス及び進路指導、生徒主体を重視した特別活動の実践、コミュニティ・スクール導入による地域との連携強化、迅速で組織的な生徒指導・教育相談、年間計画に基づく保健安全指導の実践等に取り組み、一定の成果をあげることができた。</p> <p>一方で、生徒数減や複雑化する教育環境にあって、業務の精選や工夫による持続可能な取組の在り方、新学習指導要領や高大接続改革を踏まえた対策、多様な生徒のニーズに応じた支援への協働体制整備、部活動の適正な運営に基づく活性化など、多岐にわたる課題の解決に向けて、共通理解を図りながら進めていく必要がある。</p>	
<b>【学習指導】</b>	
○生徒の学習意欲の向上を図るとともに、教科内・教科間で連携して、主体的・対話的で深い学びをめざした授業改善に取り組む。	
○動画学習の効果的な活用に努め、朝学や家庭学習の充実を通して、学力向上を図る。	
<b>【生徒指導】</b>	
○開発的・予防的生徒指導の推進により、社会性や自己指導能力を育み、いじめや問題行動の未然防止を図る。	
○個々の生徒の特性を踏まえた指導・支援に協働して取り組むとともに、自他の人権や生命を尊重する態度を養う。	
<b>【進路指導】</b>	
○進路情報を適切に提供し、満足度の高い進路決定・進路実現をめざしたきめ細かな指導・支援に取り組む。	
<b>【保健・安全指導】</b>	
○心身の健康への関心を高め、望ましい生活習慣の定着を図る。	
○清掃活動（ボランティア活動を含む）の充実・校内外の施設整備・環境美化を推進する。	
<b>【学校運営、特色ある学校づくり】</b>	
○総合学科の特色ある取組の意義や目的を明確化し、3年間を見通した計画的・系統的な取組を推進する。	
○コミュニティ・スクールの仕組みを活用し、連携による教育活動の質の向上を図るとともに、積極的な情報発信に努める。	
<b>【業務改善】</b>	
○業務の精選・効率化を進め、学校運営・教育活動の質の一層の向上を図る。	
○個々の課題に応じたプロジェクトチームを組織するなど、協議の場を設定して迅速な解決を図る。	

<b>3 平成31年度 チャレンジ目標</b>	
○生徒が主体的に考える力・表現する力の育成をめざした教育活動の推進	
○生徒会活動目標「誰からも愛される居心地の良い学校づくり」の具現化	

4 自己評価					5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等
学習指導	多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力を育む。	教員研修を充実させ、新学習指導要領を視野に入れた授業改善を行う。具体的には以下の点に取り組む。 ・グループで対話する場面や生徒が考える場面と教師が教える場面を適切に設定する。 ・「見方・考え方」を働かせるような発問や取り組みを仕組む。	教員アンケートによる 4:「授業改善できた」という回答が7割以上 3:「授業改善できた」という回答が5割以上 2:「授業改善できた」という回答が3割以上 1:「授業改善できた」という回答が3割未満	4	教員アンケートにおいて「授業改善できた」との回答が76.5%であったことから評価を4とした。生徒の授業アンケートに関する各教科での分析結果からも、生徒が自分の考えや意見を出しやすくするために教科ごとに様々な工夫をしていることがよくわかった。研究授業を年間10回実施したほか、教員相互授業研修週を年間2回設定し、これらの取り組みを全体として共有している。	授業で生徒が身に付けた力が、課題研究発表会の素晴らしい発表につながっていた。
生徒指導	多様性の中で他者を認め、他者と自分を尊重できる力を養う。	総合学科の多様な選択のための指導を通して、自己肯定感を高め、他者を認め尊重する力が身につく指導体制の充実を図る。	4:十分な取組ができた。 3:ほぼ取り組むことができた。 2:取組が不十分であった 1:取組ができなかった。	3	授業や学校行事など学校生活全般において、自己判断や選択を必要とするときに、年次主任や担任を中心に、適切な指導がなされていた。このことが他者と自分との違いを認識し、他者を認め自己肯定感を高めることにつながっている。	平素の教育活動の中での、他者を認め自己肯定感を高める指導が、いじめの少なさにつながっていると考えられ、高く評価できる。
	生命の大切さを理解し、いじめについて考え、いじめ防止に取り組む。	いじめ対策委員会を活性化し、いじめアンケートや個人面談等を通して、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を図る。	4:十分な取組ができた。 3:ほぼ取り組むことができた。 2:取組が不十分であった 1:取組ができなかった。	3	いじめアンケートと県教委作成の生活アンケートを実施し、生徒それぞれの悩みについて担任、年次主任を中心に対応した。また、いじめ対策委員会では、本校のいじめ対策防止についての確認やいじめが起きた場合の対応を検討した。	
	ルールや規範の意義を理解し、自主的な規範意識の醸成を図る。	岩国総合高校生としての誇りを持ち、規範意識を高め、その必要性を主体的に認識することができる環境を作る。	4:十分な取組ができた。 3:ほぼ取り組むことができた。 2:取組が不十分であった 1:取組ができなかった。	3	授業や学校行事など学校生活のあらゆる場面で、ルールを守ることの大切さを指導してきた。少しずつではあるが、自主的にルールを守る生徒が増えてきている。	

進路指導	主体的に進路実現を目指す態度を育てる。	それぞれの年次に応じた、効果的な進路ガイダンスや学校見学等を行う。	生徒アンケートによる 4:「役に立った」という回答が8割以上 3:「役に立った」という回答が6割以上 2:「役に立った」という回答が4割以上 1:「役に立った」という回答が4割未満	4	4月に2,3年次生向け進路ガイダンス、11月に1年次生向け上級学校見学と2年次向け進路説明会を実施し、生徒アンケートの「役に立った」という回答が83%であった。幅広く進路研究を行うことができ、進路に対する意識を高めることができた。	生徒の幅広く多様な進路希望によく対応し、指導している。	3
	受験に対する意識を高める	小論文指導、面接指導など、個々の生徒に対応した効果的な指導を行う。	生徒アンケートによる 4:「役に立った」という回答が8割以上 3:「役に立った」という回答が6割以上 2:「役に立った」という回答が4割以上 1:「役に立った」という回答が4割未満	3	3年次生向けに面接指導と小論文指導を行った。生徒アンケートの「役に立った」という回答は70%であった。「まあ役に立った」という回答を合わせると95%であり、概ね生徒の受験に役立たせることができたと考えている。		
保健・安全指導	体力・健康の維持及び向上	規則正しい生活習慣（学校生活・家庭生活）を確立する。	4:十分な取組ができた。 3:ほぼ取り組むことができた。 2:取組が不十分であった 1:取組ができなかった。	3	保健だよりの月1回発行や長期休業の前に全校生徒に対して良い生活習慣を身につけるように促し健康観を高めた。また、熱中症・インフルエンザなど時期に応じた予防法と対応について注意喚起した。	多くの生徒がボランティア活動に参加していることは評価できる。また、電車の待ち時間に駅の掃除を自発的に手伝う生徒などもおり、ボランティア精神が育っている。	3
	環境教育の充実を図る	清掃活動への積極的な取り組みを行い、学校全体の環境美化に努める。(月末大掃除・ボランティア活動を含む)	4:十分な取組ができた。 3:ほぼ取り組むことができた。 2:取組が不十分であった 1:取組ができなかった。	3	清掃活動については、開始時間や取り組み度にはばらつきがあったが、ほぼ時間いっぱい取り組んでいた。また、ボランティア活動について、積極的に取り組む生徒が多い。		
	防災教育の充実を図る	毎月の点検や防災訓練を通じて防災への意識を高め、実生活に生かす。	4:十分な取組ができた。 3:ほぼ取り組むことができた。 2:取組が不十分であった 1:取組ができなかった。	3	校内の安全点検を毎月行い、不具合箇所を把握して、事務室と連携して修繕を行った。防災教育については、年間3回の防災訓練を事前に日時を予告せず実施して防災対応能力を育成した。		
各年次	1年次→基本的な生活習慣の確立 ・自ら考え、主体的に取り組む姿勢の涵養	・クラス内でのグループ活動を推進し、HR活動や産社、教科学習における活用を図る。 ・年次の取り組みとしての自治的活動を推進し、あわせて学年意識の醸成を図る。	4:十分な取組ができた。 3:ほぼ取り組むことができた。 2:取組が不十分であった 1:取組ができなかった。	3	考えること、意見を表明すること、他者の考えを聞くことが日常的活動になりつつある。 ホームルーム委員が中心となり、クラスでの話し合いを経たうえで、年次全体での意見交換と合意形成が可能となりつつある。	基本的な生活習慣の確立、基礎学力向上、自ら考え主体的に取り組む姿勢いずれも大切なことであり、引き続き取り組んでほしい。	3
	2年次→基本的な行動様式、生活習慣の確立。進路実現に向けた基礎学力向上や進路実現に向けた資質能力を育成する。	・授業を大切にできる姿勢を身に付け、学習環境を整える。また、動画学習に積極的に取り組む事で、学習時間を確保する。 ・高校生らしい頭髪・服装の身だしなみを整え、時間厳守・挨拶励行に取り組む	4:十分な取組ができた。 3:ほぼ取り組むことができた。 2:取組が不十分であった 1:取組ができなかった。	3	日々の授業を大切にできる姿勢を身に付けつつある生徒が増えている。2年間実施した様々な講演会によって、生徒は自らの生き方を改めて考え、卒業後の進路を考えるきっかけになった。動画学習については積極的に取り組む生徒が増えたことは喜ばしいが、ログインしていない生徒への指導については、今後の課題である。 基本的な生活習慣を確立し、高校生らしい学校生活を過ごすことができる生徒が増えている。		
	3年次→自ら考え行動する力を育成し、「自立」の具現化を図る。	いかなる場面でも基礎・基本を大切にしながら、主体的な思考・判断等を促し、社会に対応できる人材育成に努める。	4:十分な取組ができた。 3:ほぼ取り組むことができた。 2:取組が不十分であった 1:取組ができなかった。	3	改めて、1年時からの積み重ねが重要だと感じた。卒業後も各自がさらに意識を高め、さまざまな場面で主体性を発揮してほしい。		
特色づくり	「来たくなる・行かせたくなる」魅力ある学校づくり	総合学科の特色を生かして、学び続ける生徒の育成に努め、キャリア教育を推進する(動画学習を含む)。	4:十分な取組ができた。 3:ほぼ取り組むことができた。 2:取組が不十分であった 1:取組ができなかった。	3	キャリア教育の体系化を図るとともに、来年度から導入される「キャリアパスポート」の作成に着手するなど改革に努めたが、来年度に向けて、教務課、総務課、進路課とのさらなる協働が必要である。	生徒会行事はいつでも素晴らしいものであった。	3
		生徒が主体的に考え、行動できる特別活動を推進する。	4:十分な取組ができた。 3:ほぼ取り組むことができた。 2:取組が不十分であった 1:取組ができなかった。	3	体育祭や総合祭など担当教諭を中心に、生徒自らが動ける環境作りに努めたが、その雰囲気や細部まで浸透させることに至るのは難しい。来年度のリスタートに向けて新執行部のリーダー研修会を開催できたことは大きな成果である。		
学校運営	総務課を中心とした、各課相互連携体制の構築と行事・日程の精選	円滑な学校行事の運営のために今までの業務の洗い直し、精選、再構築と改善を行う。	4:十分な取組ができた。 3:ほぼ取り組むことができた。 2:取組が不十分であった 1:取組ができなかった。	3	昨年度の反省をもとに、授業時間を確保しながら学校行事等の再構築に取り組んだ。体育祭、文化祭、PTA総会など、各種行事を円滑に進めるため、各分掌間の調整を図ることができた。	今後も円滑な校務運営に取り組んでもらいたい。	3
		円滑な情報共有・行事運営のために、情報機器・ファイル形式の更新を進める。	4:十分な取組ができた。 3:ほぼ取り組むことができた。 2:取組が不十分であった 1:取組ができなかった。	3	学校全体で扱いやすいファイル形式に順次更新を進め、全体の約6割程度が学校全体で共有可能になった。		
業務改善	時間外業務時間の削減	時間外業務時間を前年度比10%以上削減する。	4:10%以上削減ができた。 3:5~10%削減できた。 2:0~5%削減できた。 1:削減できなかった。	3	時間外業務時間は、1月末時点で前年度比5%の削減率であった。(平成28年度比28%削減)	教職員の働き方改革には、引き続き努力してほしい。	3

## 5 学校評価総括（取組の成果と課題）

- 学習指導については、あらゆる教科・科目や領域で、グループワークやディスカッションなどを授業展開に取り入れた学習活動を通して、「学ぶ力」「考える力」「表現する力」の育成を図っており、引き続き各教科での取組の共有化を進めていく必要がある。
- 「体育祭」や「総合祭」をはじめとする生徒会行事における生徒の自主企画・自主運営や、ボランティア活動への自主的参加、さらに、ホームルーム活動での生徒自主企画を取り入れるなどにより、他者の違いを認め尊重する態度が育っている。生徒会役員の合宿やミーティングの充実により、役員のリーダーシップによる活動がさらに充実するものと期待できる。
- 生徒の進学・就職に向けた指導については、生徒一人ひとりの個性や適性を踏まえた指導や、個別面談による進路意識の高揚に取り組んでいるが、学校の進路指導体制や方針が、生徒・保護者に十分伝わっていない点が見受けられ、今後の課題である。
- 学校運営においては、新学習指導要領移行への対応などに向けた企画・改善の機能を強化するため、今年度学校運営組織（校務分掌）の業務分担を一部見直したほか、時期による業務の繁忙に対応するため、主管課のほかに複数の課が連携して業務を分担する体制を取り入れたが、依然として一部教職員への業務負担の集中が解消できておらず、大きな課題として残った。
- 教員の働き方改革への取組については、平成28年度からの三年間で平均時間外業務時間が28%減少し一定の成果があったものの、30%減の目標は達成できなかった。また、一部教職員の月平均80時間を超えるなどの長時間業務については依然として改善できておらず、大きな課題として残った。

## 6 次年度への改善策

- 各教科の授業や課題研究における宿題を工夫したり、予習復習を求めたりするなど、基礎学力の向上に向けた家庭学習習慣の定着を図る。
- 「学ぶ力」「考える力」「表現する力」の育成に向けた授業展開の工夫やICTの効果的な活用に向け、教科間・授業担当者間での取組や授業技術の共有を図る。
- 1年次からのキャリア教育の取組による成果と、生徒一人ひとりの個性や適性、能力をきめ細かく把握しながら、個に対応した進路指導をさらに充実させる。
- 十分な協議時間を確保しながら、迅速な意思決定と業務改善を両立させるため、校務分掌や年次間の連携を強化し、事前調整を徹底する。
- 教員の働き方改革に向けて、各課の組織運営の修正・見直しや会議の効率化をさらに進めるとともに、授業研究による担当者間の教材の共有や部活動運営の改善など、教員の本来業務である教育活動の効果を上げながら、効率化の視点で改善を図る。